

人 チーム 制度



朝メール夜メールで働き方を確認!

(株)長大 監理部(東日本) グループ3

さいとう ひろし
齋藤 弘志さん

今回、(株)長大の監理部(東日本)での朝メール夜メールの取組みについて、グループメンバーのお一人、齋藤弘志さんにお話を伺いました。朝メール夜メールを行うことによって、働き方にどのような変化があったのでしょうか。

「朝メール夜メール」とは何でしょうか?

「朝メール」では、出社時に当日のスケジュールを時間単位で組み立て、「夜メール」では、帰る前に「朝メール」の通りにできたかどうか、進捗結果を報告し、グループメンバーで共有するものです。うちのグループでは、サイボウズのテーマチャット機能を活用しています。

「朝メール夜メール」を続けてどのくらい経つのでしょうか?

2015年の全社大会で有志による討議があり、そこに参加していたグループ内の若手社員が、討議の検討材料として、このグループで朝メール夜メールを試してみたいと提案してきたことがきっかけでした。

全社大会終了後も、自身の働き方の確認やグループ内の情報共有などに効果あり!ということで引き続き行うことになり、開始してから2年以上が経過しています。

「朝メール夜メール」により働き方に変化はありましたか?どのような効果を感じていますか?

朝の数分間を「タスクマネジメント」にあてることで、仕事のリストアップや、優先順位付けを行うことができます。また、個人で抱えていた仕事を、他の社員やアルバイトさん、協力会社等の第三者に分配することで、自らは本来取り組むべきタスクに注力することができ、従来よりも効率的、効果的な仕事ができるようになったと効果を感じています。

監理部(東日本)G3の紹介

管理職 : 男性1名
正社員 : 男性3名、女性1名
契約社員 : 女性1名

(2018年1月現在) 合計 6名

プロフィール

氏名 : 齋藤 弘志さん
所属 : 監理部(東日本)
勤続年数 : 9年
居住地 : 茨城県つくば市
家族構成 : 妻/子供2人
勤務状況 : 裁量労働制勤務

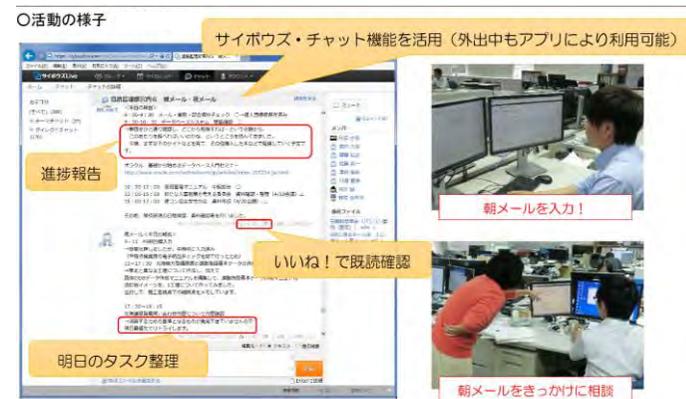
また、「朝メール夜メール」では、管理職を含むグループメンバーに公開するため、計画したスケジュールが他者の目にさらされることとなります。そのため、自らを律することができ、仕事中の集中力や、工程管理の意識は従来よりも確実に改善します。

あえて課題を述べるならば、現在の手法では、中期的なタスクマネジメントが不明確なため、「どの仕事をいつまでに完了すべきか」「本日の進捗率はどのぐらいか」等の、完了期日と進捗率を明確にすることが出来れば、より有益なツールになると感じています。その点はメンバーの意見を取り入れつつ、よりよい方法を見出していきたいと思っています。

最後に、建コン業界の皆さんに何かコメントはありますか?

世間では、この一年間で「働き方改革」の波が押し寄せてきており、残業や休日出勤に対する認識が変わってきています。いまや「仕事効率化」は会社員にとって必須条件となっています。

「朝メール夜メール」は、誰でも簡単にできる有効な「仕事効率化」手段の一つであるといえます。皆様も機会があれば是非とも試していただき、効果を実感していただければと思います。



【朝メール夜メールの実施状況】

【管理職からの感想】

朝メール夜メールにより、メンバーが何の作業を行っているかを把握でき、特に繁忙期においては業務の割り振りを効果的に実践できました(比較的手が開いている部員に対し、作業集中している部員のサポートを指示)。また、報告された作業内容に対し、どの位の時間を要しているのか詳細に把握できたため、部員一人一人の能力・作業への適性等についても窺い知ることもできました。

“Kaizen”の基本はPDCAサイクルを回すこと。朝メールが「P」、作業が「D」、夜メールで一日の作業内容を確認し、次の日どう作業を進めるか(C⇒A)しっかり考える事を、本施策を通じて日々実践して欲しいと考えています。

男性管理職 Aさん